

海洋環境の快適性に関する沿岸域住民意識の調査結果

九州共立大学工学部 学生会員 高木 玲緒奈
九州共立大学工学部 正会員 片山 正敏

1. はじめに

沿岸域は、不特定多数の人々を対象とする人間活動や住居の場としてその利用が活発となってきた。これにともない、沿岸域における活動性・居住性・快適性に対して、沿岸域であるがための環境に関わる諸問題が表面化してきている。この観点から、北九州市近郊の沿岸域において海洋環境の快適性に関する住民意識について「アンケート調査」を実施したので報告する。

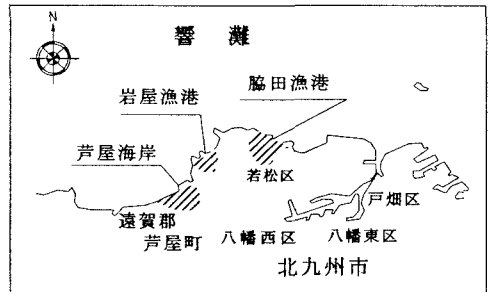
2. アンケート調査の概要

北九州市近郊の沿岸域における住民に対するアンケート調査の概要を表-1に示す。調査場所は、北九州市若松区および福岡県遠賀郡芦屋町の海岸線近傍の漁業関係者や会社勤務者が比較的多い近郊の漁業・住宅地区といったところである。(図-1参照)

がよくなり、防音効果が向上したようである。

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	九州近郊の沿岸域住民
調査期間	平成13年8月~10月
調査方法	居住地を訪問し、調査票配布・回収
調査項目	属性6、波の音についての快適性12 風の音についての快適性16 その他の海洋環境についての快適性26
回収数	121(有効回答者数 107)
有効回収率	88.4%



脇田漁港：人工(垂直岸壁+消波ブロック)海岸地区
海岸地区芦屋海岸：自然砂浜海岸地区
岩屋漁港：人工(垂直岸壁)海岸地区

図-1 調査場所

3つの異なる海岸形態の人工(垂直岸壁+消波ブロック)海岸地区、自然砂浜海岸地区、人工(垂直岸壁)海岸地区で訪問・留置・回収の方法をとった。

3. 回答者の属性

回答者の属性は次のとおりである。

(1) 回答者の年齢

回答者の年齢は、40歳以上の中・高年齢層が大多数を占めている。(図-2参照)

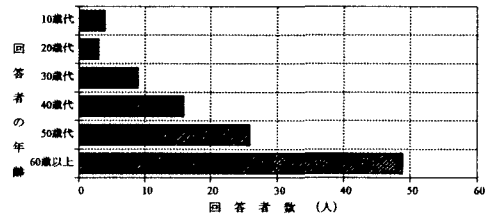


図-2 回答者の年齢

(2) 回答者の性別

回答者の性別は、女性(52.3%)と男性(47.7%)では、若干女性のほうが上回っている。

(3) 回答者の職業

回答者の職業は、専業主婦(25.5%)及びその他(36.4%)の割合が比較的多くなっている。次に自営業(15.9%)と会社員(14%)がほぼ同じくらいの回答数となっている。

4. 波の音に関する快適性

3つの海岸地区における波の音に関する快適性については、海が荒れている時は比較的「不快」と感じる傾向にあることがわかる。自然海岸、人工海岸ともに、同じ結果が得られた。(図-3参照) また、「普通」と感じている人が圧倒的に多いことから、家屋の設備

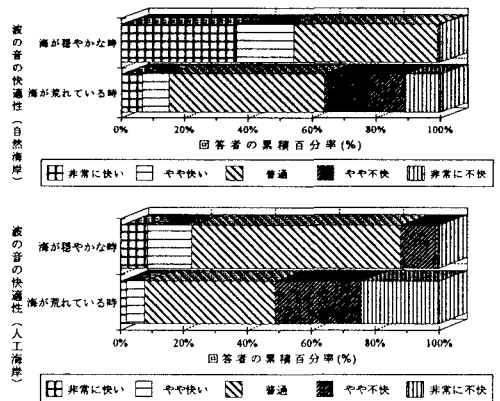


図-3 波の音に関する快適性

続いて、3つの海岸地区における波の音の響き(迫力)は、自然海岸では海が穏やかな時は響きが小さいが、荒れている時は響きが大きいと感じているようである。

人工海岸でも同じ結果になったが、若干響きが大きいと感じている人が多くなっている。これは、人工の護岸(垂直岸壁)に波があたることによって音が大きく感じられているからと思われる。

次に澄み具合(透明感)について、自然海岸では海が穏やかな時は澄んでいると感じているが、荒れている時は澄んでいないと感じている。人工海岸についてもほぼ同じ結果が得られたが、澄んでいると感じている人は、非常に少ないという結果になった。

5. 海風の音に関する快適性

3つの海岸地区における海風の音に関する快適性については、海が荒れている時は「不快」と感じる傾向にあることがわかる。この場合、自然・人工海岸でも同様の傾向がみられるが、自然海岸では海が穏やかな時「快い」と感じる人が多いのに対し、人工海岸ではさほど多くない。続いて、響き(迫力)についてみると、自然・人工海岸ともに、海が荒れている時のほうが響きがあると感じている。(一例として図-4参照)

6. その他の海洋環境についての快適性

3つの海岸地区における夏の海洋環境に関する快適性については、いずれの海岸地区とも夏は湿度が多いため潮のべとつきについては、「不快」という回答が過半数を占めている。続いて、海岸を歩いている時の潮風についてみていくと、3つの海岸地区とも「快適」という回答が大多数を占めている。(一例として図-5参照)

夏・冬の海洋環境における快適性を比較検討してみると、季節の変化によって異なるものであることがわかる。物理的な面では「不快」と感じる傾向にあり、心理的・生理的な面では、季節にあまり関係なく、「快適」と感じる傾向にあることがわかる。

7. SPSSによる分析結果

SPSS を用いて、コレスポンデンス分析及びクラスター分析を行った。

「波・海風の音に関する快適性」についてのコレスポンデンス分析結果によると、海が穏やかな時+評価の「快い」と感じ、荒れている時は-評価の「不快」と感じる傾向にあることがわかる。

「その他の快適性」については4つにわけ、分析を行ったところ、全体的に夏は「快適」と感じ、冬は「不快」と

と感じていることが多いということがわかる。塩害の被害についてはどちらも「多い」ことがわかる。一例として、潮関係の分析結果を図-6に示す。

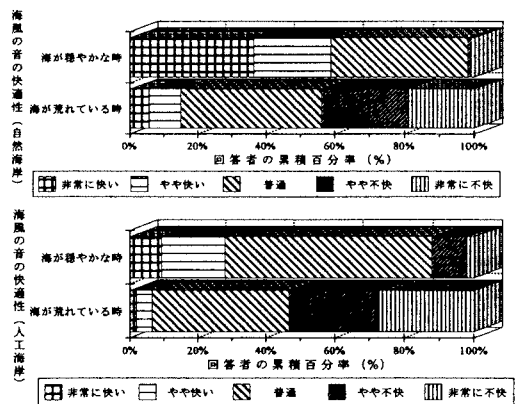


図-4 風の音に関する快適性

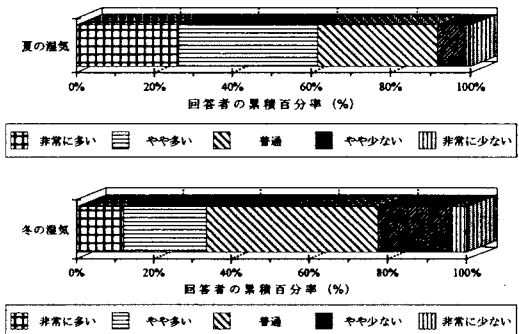


図-5 その他の海洋環境(湿度)に関する快適性

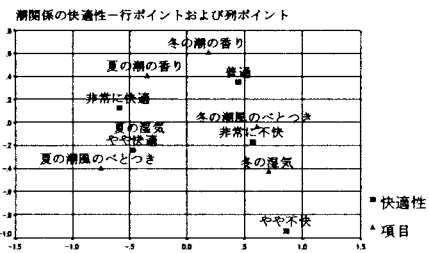


図-6 コレスポンデンス分析結果(潮関係の快適性)

8. おわりに

沿岸域における住民の意識について「アンケート調査結果」より、住民が生活する上での快適性・不快性について基礎的な知見を得ることができた。今後、さらに他場所における調査を進め比較検討を行いたい。また、回答者の身になり、項目をわかりやすい言葉にかえて、より正確な住民の意識を調査できるように、項目の改善を行ってきたい。